

目 次

巻頭言

川村明夫

各部門報告

主要論文(2002年)

- ・Transfusion in Japan. Kawamura A. Transfusion and Apheresis Science 26: 113-114, 2002.
- ・Critical care by cytapheresis. Kawamura A, et al. Therapeutic Apheresis 6: 204-207, 2002.
- ・Cryofiltration における最近の技術的動向. 米川元樹, 他. 日本アフェレシス学会雑誌 21: 20-27, 2002
- ・透析患者における消化管異常. II 上部消化管異常. (2) 胃・十二指腸・上部消化管出血. 久木田和丘, 他. 臨牀透析 18: 1521-1524, 2002.
- ・ラット小腸温阻血・再灌流傷害に対する L-Glutamine の効果: Heme Oxygenase-1 の誘導と抗apoptosis 作用. 増子佳弘. 北海道医学雑誌 77: 169-183, 2002.
- ・自己免疫性肝炎に対する血漿冷却濾過 (CRYO) の有効性について. 村井紀元, 他. 日本アフェレシス学会雑誌 21: 70-73, 2002.
- ・Application of peripheral blood stem cells (PBSC) mobilized by recombinant human granulocyte colony stimulating factor for allogeneic PBSC transplantation and the comparison of allogeneic PBSC transplantation and bone marrow transplantation. Kasai M, et al. Transfusion and Apheresis Science 26: 121-127, 2002.
- ・骨髄移植とミニ移植. 小林直樹, 他. 臨牀病理レビュー 特集 第122号, p.6-13, 2002.
- ・自然気胸治療における3D-CT画像の有用性. 本田哲史. 気胸 4: 16-18, 2002.
- ・骨髄バンクドナーの麻酔. 中尾康夫. 臨牀麻酔 26: 155-160, 2002
- ・透析患者の術前水分管理と麻酔下における心機能測定. 沼澤理絵, 他. 循環制御 23: 416-419, 2002.

学会発表

国際学会発表(2002年)

全国学会発表(平成14年)

地方会発表(平成14年)

発表論文

邦文(平成14年)

英文(2002年)

主催学会報告

講演会・研究会報告

編集後記

笠井正晴

巻頭言

“人類の多様性と叡智”を認めないと我々は破局する

特定医療法人北楡会

理事長 川村明夫

“人類の多様性と叡智”、人類の多様性は人類の叡智により担保されているという意味である。タイトルを書いてから変だなと考えた。叡智があるから人類の多様性が生まれたのではないかと。しかし、叡智という事になると、叡智の無い者は人類の分類に入らないのか。英語では叡智はウイズダムである。賢明(さ)、知恵、分別が解釈になる。こうなると、私などは当然この範疇に入らない。それでは困る。しかし、人類には叡智があると云う考えのうえに、人類の多様性も肯定されているのではないか。

近年、米国の多発テロを受けて、イスラム文明とキリスト教文明が激しく対立している。アルカイダやビン・ラディンの悪行を公然と受け入れる風土がイスラム圏にあるのは終を得ざる面がある。しかし、わが国民のように優美な素養を持っている人々の間にも、これを支持する勢力が存在するのを見ると、“人類は多様である”と肯定せざるを得ない。しかし、アルカイダの行為を賢明である、と見る人々はイスラム圏にも少ないのではなからうか。それでは、人類の多様性とは、“人類の愚か性”に帰属することになる。ここに、馬鹿もいれば賢いのもいるから、人類は多様である、と云う考えがある。すなわち、この考え方は賢いと云われる人から見れば馬鹿は馬鹿に見え、馬鹿から見れば賢いと云われる人のなかにも馬鹿はたくさんいる。

それでは、人類の多様性を認めるために叡智は必要なのか。

ここで、思わぬ発見をした！！ 私はいま文章をパソコンで記載している。なんと驚いた事に、前段の馬鹿の羅列文字下に、使用が適当でないグリーンと標識が出た。この段の馬鹿にもグリーンと標識が出た。要するに馬鹿という言葉は使用禁止なのである。“ばか”、“バカ”なら OK である。

これは、天佑か！！

このような、パソコン文化も多様性を認めがたらない、“馬鹿”は差別用語と言いたいのだろう。この事実がすでに差別的であるのだが、ここにも、キリスト教、イスラム教を始めとする唯一神、絶対神文化の影響が見られる。もちろん、わが国も発行部数が巨大な新聞社とシリアスな番組を見せておきながら、視聴率を稼ぐために間髪を置かずフザケタ番組を放映するマスメディアによって人々の心は占領されている。唯一神信仰の影とポピュリズム迎合主義が見える。米国もご同様に、こちらは宗教感とマスメディア攻勢が一体となり国民の心を脅かしている。よく、米国は自由で安全、アメリカンドリームは素晴らしいと日本人は考えている。米国民もそのように考えさせられている。しかし、これを一步下がってみると、現実はこのような状況に無い。これは、人々を見下したマスメディアが人々の心をリードした産物である。北朝鮮の指導者はこれを見ている。なるほど、これだ！ 喜び組みの派遣だ！ 金正日の高笑いが聞こえる。

そこで、人類の多様性を認めるには叡智が必要になる。唯一絶対神的考え方が人々を不幸に導いていることは歴史的が証明しており、現在も進行中である。これは人間に叡智が無いからである。

叡智は他者への迎合では生まれない。しかし、他者へ迎合しないということは他者の多様性を認め難いという観念に陥りやすい。ここに一神教の蔓延る根拠がある。それでは、人類に叡智は存在しないのか。叡智に収斂する観念は等しく人類の持つものである。しかし、個人の叡智を表現しようとしたとき、その個人は多くの困難に遭遇する。困難を克服するか、ポピュリズムに迎合するか。イラク紛争はまさにこの両者の狭間に立たされている。マスメディアの報道ではイラクの人々には叡智の欠片もない、かたやアメリカ合衆国は他者を理解する事が出来ないと。この現象の起因は国家の指導者やマスメディア、アナンなどのポピュリズム迎合主義に根拠がもたれられる。そして、ここには叡智など存在しない。本来、政治家や宗教指導者、マスメディアに叡智を求めるのは無いものねだりではないのか。彼らは人々の利益を擁護する名目のもとにポピュリズム迎合主義を主張する。これでは、“人類の多様性と叡智”などはただのお題目に転落する。

いま一度、人類の多様性を認めることと叡智は並び立たないのか。結論は並び立たない。順序が必要である。人類の“多様性”を全てに優先して認めることにより我々は破局から救われる。

叡智とはポピュリズムに陥ることなく理性をもって多様性を認めることで、ここから“人類の多様性と叡智”の概念が始まるのではないか。

しかし、“叡智ある”ということはせめて“愚かではない”というあたりに止まるのか。それでも、この急激に進む人類破局への方向が少しでも変われば良しとしなければならないのか。

学会発表

国際学会

2002年

- American Society of Clinical Oncology, 2002 Annual Meeting (May 18-21, 2002 = Orland, USA)
Randomized phase III trial investigating survival benefit of dose-intensified multidrug combination chemotherapy (LSG9) for intermediate- or high-grade aggressive lymphoma: Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study (JCOG9002)
Lymphoma Study Group of Japan CLinical Oncology Group (JCOG-LSG)
T. Kinoshita, T. Hotta, K. Tobinai,
T. Kobayashi, S. Shirakawa,
M. Tomonaga, T. Sai, Y. Ohno,
M. Kasai, M. Ogura, C. Mikuni,
H. Toki, M. Niimi, N. Ishizuka,
M. Shimoyama

- The American Gastroenterological Association, Digestive Disease Week - 2002 (May 19-22, 2002 = San Francisco, USA)
Efficacy of the leucocyte apheresis with the use of the nonwoven polyester filter for ulcerative colitis
Dept. of Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital
N. Kawamura, K. Ohta, Y. Miura,
Y. Nakai, M. Tsuyuguchi,
H. Ohizmi, M. Saitoh
Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital M. Yonekawa, A. Kawamura

- The 29th World Congress of the International Society of Hematology (August 24-28, 2002 = Seoul, Korea)
Platelet recovery after helicobacter pylori (HP) eradication in patients with chronic idiopathic thrombocytopenic purpura (ITP)
Sapporo Hokuyu Hospital
N. Kobayashi, T. Ogawa, K. Imai,
M. Ogasawara, Y. Kiyama, T. Higa,
M. Kasai

- Microsatellite instability in lymphoid neoplasms and its association with the expression of bcl-2 family genes and multidrug resistant genes
Sapporo Hokuyu Hospital
T. Ogawa, K. Imai, N. Kobayashi,
M. Ogasawara, Y. Kiyama, T. Higa,
M. Kasai

- XIX International Congress of the Transplantation Society (August 25-30, 2002 = Miami, USA)
 - Protective effect of L-glutamine on the injury associated to ischemia-reperfusion in the rat small intestine
 - Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene Therapy
 - T. Tamaki, Y. Masuko, M. Tanaka,
 - A. Ikeda, A. Kawamura
 - Hokkaido Univ. M. Yasuhara
 - Kitasato Univ. S. Tsuchihashi
 - Induction of heme oxygenase-1 increases resistance of rat liver allografts to cold ischemia and reperfusion injury
 - Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene Therapy
 - A. Ikeda, T. Tamaki, M. Tanaka,
 - S. Tsuchihashi, A. Kawamura
 - Kitasato Univ. Y. Uchida, T. Kaizu, A. Kakita
 - Preconditioning with antioxidant pyrrolidine dithiocarbamate attenuates cold ischemia and reperfusion injury in the rat liver
 - Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene Therapy
 - S. Tsuchihashi, T. Tamaki,
 - M. Tanaka, A. Ikeda, A. Kawamura
 - Kitasato Univ. T. Kaizu, A. Kakita
- 10th United European Gastroenterology Week (October 19-23, 2002 = Geneva, Switzerland)
 - Efficacy of the leucocyte apheresis with the use of the nonwoven polyester filter for the maintenance therapy of ulcerative colitis
 - Dept. of Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital
 - M. Tsuyuguchi, Y. Miura,
 - N. Kawamura, H. Ohizumi,
 - M. Saitoh
 - Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital M. Yonekawa, A. Kawamura
- 53rd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (November 1-5, 2002 = Boston, USA)
 - A Rho-specific exchange factor Ect2 is induced from S to M phases in regenerating mouse liver and regulates cytokinesis in hepatocytes
 - Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene Therapy
 - H. Sakata, T. Tamaki, K. Kukita,
 - J. Meguro, M. Yonekawa,
 - A. Kawamura

· The American Society for Hematology 44th Annual Meeting (December 6-10, 2002 = Philadelphia, USA)

Myeloablative allogeneic hematopoietic stem cell transplantation (Allo-HSCT) for non-Hodgkin lymphoma (NHL) : A retrospective survey

Japanese Multi-Institutional Cooperative Study Group for Blood and Marrow Transplantation

M. Higuchi, T.E. Tanimoto,
N. Hirabayashi, Y. Tanaka,
A. Kawano, S. Yoshioka,
T. Kamimura, M. Kasai, J. Ishikawa,
M. Hara, K. Kishi, K. Izutsu,
S.-W. Kim, M. Harada, Y. Takaue

Comparison of chronic graft-versus-host disease (GVHD) following allogeneic bone marrow (BMT) vs peripheral blood stem cell transplantation (PBSCT) in Japanese Patients.

Japanese Multi-Institutional Cooperative Study Group for Blood and Marrow Transplantation

T.E. Tanimoto, A. Saito, Y. Tanaka,
A. Numata, M. Kasai, T. Mori,
M. Kasai, S. Yamasaki, M. Sakai,
Y. Miyazaki, N. Uike, T. Yamashita,
S. Mori, Y. Takaue, M. Harada

全国学会

平成 14 年

・第 35 回日本腎移植臨床研究会(平成 14 年 2 月 5~7 日 = 箱根)

生体腎移植における腎移植片の術前評価

札幌北榆病院 外科

田中三津子, 玉置 透, 増子 佳弘,
土橋誠一郎, 池田 篤, 後藤 順一,
村井 紀元, 飯田 潤一, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

CMV 抗体陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植の 4 例

札幌北榆病院 外科

土橋誠一郎, 玉置 透, 田中三津子,
後藤 順一, 池田 篤, 村井 紀元,
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

服薬自己管理に向けてのコミュニケーションの実際

札幌北榆病院 第 6 病棟

源川 裕乃, 岡元 由紀, 成田 円,
佐藤はるか, 高橋 直美, 鈴木 雅永,
栗坪 睦子

腎移植の経済的効果 - 透析医療との比較において -

札幌北榆病院 療養情報センター

星 奈美恵

・第 7 回ブラッドアクセスインターベンション治療研究会(平成 14 年 3 月 2 日 = 東京)

動静脈ホールとともに開閉可能なダブルルーメンカテーテルの開発

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 後藤 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

・日本医工学治療学会・第 18 回学術大会(平成 14 年 3 月 15, 16 日 = 三重)

(ワークショップ) 血液透析におけるイオパミドールの除去率の検討

札幌北榆病院

久木田和丘, 中尾 康夫, 土濃塚広樹,
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,
田中三津子, 玉置 透, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫

(シンポジウム) 当院でのアフエレス療法における臨床工学技士の関わり

札幌北榆病院 臨床工学技士

土濃塚広樹

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

血液透析・血液濾過透析 (OFF・ON LINE) における 2-MG の除去率の検討

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

土濃塚広樹, 阿部 博, 中尾 康夫,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

第 42 回日本呼吸器学会総会(平成 14 年 4 月 4~6 日 = 東京)

気腫性肺嚢胞性疾患の診断・治療における 3D-CT 画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科・気胸センター

本田 哲史

第 102 回日本外科学会総会(平成 14 年 4 月 11~13 日 = 京都)

[サージカルフォーラム]ラット小腸における L-Glutamine 誘導性ストレス反応関連遺伝子の発現と細胞内シグナル伝達物質の関与

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

増子 佳弘, 玉置 透, 田中三津子,
宮下麻美子, 池田 篤, 土橋誠一郎,
村井 紀元, 川村 明夫

[サージカルフォーラム]ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP) の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

田中三津子, 玉置 透, 池田 篤,
土橋誠一郎, 増子 佳弘, 村井 紀元,
宮下麻美子, 川村 明夫

[サージカルフォーラム]転写因子 NF- κ B 活性阻害剤 pyrrolidine dithiocarbamate (PDTC) の肝虚血再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

土橋誠一郎, 玉置 透, 田中三津子,
宮下麻美子, 池田 篤, 村井 紀元,
増子 佳弘, 川村 明夫
海津 貴史, 柿田 章

北里大 外科

肝虚血後のエンドトキシン性肝障害における TNF- α 活性阻害剤 pentoxifylline (PTX) の保護効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 田中三津子,
宮下麻美子, 土橋誠一郎, 村井 紀元,
増子 佳弘, 川村 明夫
柿田 章

北里大 外科

第 1 回日本再生医療学会総会(平成 14 年 4 月 18, 19 日 = 京都)

ラット下肢虚血モデルにおける HGF plasmid DNA の導入効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

田中三津子, 玉置 透, 川村 明夫
澤 芳樹, 松田 暉
森下 竜一, 金田 安史

大阪大学 第一外科

大阪大学 遺伝子治療学

小腸虚血後の上皮再生における L-glutamine 誘導性ストレス反応物質の役割

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

増子 佳弘, 玉置 透, 田中三津子,
池田 篤, 土橋誠一郎, 村井 紀元,
川村 明夫

・第 63 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 14 年 4 月 18~20 日 = 甲府)

直腸肛門部悪性黒色腫の 1 例

札幌北榆病院 消化器科

露口 雅子, 太田 健介, 三浦 洋輔,
中井 義仁, 川村 直之, 大泉 弘子,
斎藤 雅雄

・日本麻酔学会第 49 回大会(平成 14 年 4 月 18~20 日 = 福岡)

維持透析患者の術中循環血液量変化

札幌北榆病院 麻酔科

中尾 康夫, 沼澤 理絵

・第 88 回日本消化器病学会総会(平成 14 年 4 月 24~26 日 = 旭川)

胃平滑筋腫瘍として経過観察中、肝転移を機に GIST と診断された 2 例

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 太田 健介, 中井 義仁,
三浦 洋輔, 露口 雅子, 大泉 弘子,
斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 外科

玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

・第 50 回日本輸血学会総会(平成 14 年 5 月 8~10 日 = 東京)

輸血事故防止のための試み

札幌北榆病院 内科

木山 善雄, 笠井 正晴

札幌北榆病院 輸血部

豊澤 悠子, 三浦 玲子

カラム凝集法を用いた交差試験における非特異反応除去の工夫

札幌北榆病院 臨床検査科、輸血部

三浦 玲子, 豊澤 悠子

札幌北榆病院 内科

木山 善雄, 笠井 正晴

・第 25 回日本気管支学会総会(平成 14 年 5 月 9, 10 日 = 札幌)

胸腔内疾患の診断や治療における局所麻酔下胸腔鏡の有用性 - 20 年の経験 -

札幌北榆病院 呼吸器科

本田 哲史

・第 51 回日本医学検査学会(平成 14 年 5 月 15~17 日 = 仙台)

遺伝子検査の落とし穴

札幌北榆病院 検査科

三浦 玲子

・第 23 回日本循環制御医学会(平成 14 年 5 月 17, 18 日 = 横浜)

慢性透析患者における水分管理と心拍出量測定

札幌北榆病院 麻酔科

沼澤 理絵, 中尾 康夫

・第 38 回日本肝癌研究会(平成 14 年 5 月 23 日 = 東京)

合併症のある原発性肝癌症例に対する開腹下 RFA(ラジオ波焼灼術)

札幌北榆病院 外科

目黒 順一, 後藤 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

・第 38 回日本肝臓学会(平成 14 年 6 月 13, 14 日 = 大阪)

ECT2 は肝細胞の cytokinesis を介して肝再生を促進する

米国国立癌研究所、札幌北榆病院

旭川医大 第二外科

札幌北榆病院

坂田 博美

葛西 眞一

川村 明夫

・第 22 回日本アフェシス学会学術大会(平成 14 年 6 月 14 ~ 16 日 = 札幌)

(ワークショップ) 幹細胞移植による血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

(ワークショップ) 肝不全に対するアフェシス治療の適応と限界

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘, 目黒 順一, 後藤 順一,
池田 篤, 土橋誠一郎, 村井 紀元,
飯田 潤一, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

(ワークショップ) ヘパリン化セルロースを用いた吸着カラムの開発

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

米川 元樹, 田中三津子, 川村 明夫,
玉置 透

急性肝不全患者の含窒素代謝産物の変動

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

(シンポジウム)造血幹細胞移植へのアフェレシス技術の応用 - 自己末梢血幹細胞移植 -
札幌北榆病院 内科 木山 善雄, 笠井 正晴

白血球除去療法 (LCAP) が奏功した続発性消化管アミロイドーシスの1例
札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁, 大泉 弘子, 桂田 武彦,
露口 雅子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

(ワークショップ)ドナーアフェレシス時の副作用とその対策
札幌北榆病院 人工臓器治療センター 住田 知規, 土濃塚広樹, 阿部 博
札幌北榆病院 内科 笠井 正晴
札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 11 回腎不全外科研究会(平成 14 年 6 月 21, 22 日 = 長野)
腎不全患者に合併した肺癌症例の検討
札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 久木田和丘, 後藤 順一,
池田 篤, 土橋誠一郎, 村井 紀元,
飯田 潤一, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

維持透析患者の周術期循環血液量
札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫, 沼澤 理絵
札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

・第 12 回吊り上げ法手術研究会(平成 14 年 6 月 27, 28 日 = 札幌)
当院でのつり上げ法による鏡視補助下生体腎移植ドナー腎摘と副腎腫瘍切除術
札幌北榆病院 外科 増子 佳弘

・第 9 回肝細胞研究会(平成 14 年 7 月 12, 13 日 = 秋田)
ECT2 は肝細胞の cytokinesis を介して肝再生を促進する
人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 15 回再生つばさの会全国通常総会 医療シンポジウム(平成 14 年 7 月 13 日 = 札幌)
成人の再生不良性貧血について
札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫

・第 8 回 Double Transplant 研究会(平成 14 年 7 月 13 日 = 札幌)
auto PBSCT 後の再発に対して臍帯血移植を行った AML 症例
札幌北榆病院 内科 今井 陽俊, 小川 貴史, 小林 直樹,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第 47 回日本透析医学会学術集会・総会(平成 14 年 7 月 19～21 日 = 東京)

内シャント血流音の解析

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 久木田和丘, 田中三津子,
後藤 順一, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
堀江 卓, 玉置 透, 目黒 順一,
川村 明夫

北海道大学大学院 工学研究科

今野 慎介, 片山 茂, 西村 生哉,
村林 俊, 三田村好矩

術後早期内シャントトラブル要因の検討

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 田中三津子, 後藤 順一,
池田 篤, 土橋誠一郎, 村井 紀元,
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

維持透析患者に対する人間ドック

札幌北榆病院 外科

飯田 潤一, 後藤 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 増子 佳弘,
堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

胸腔鏡補助下に摘出した大動脈弓下異所性上皮小体

札幌北榆病院 外科

村井 紀元, 久木田和丘, 後藤 順一,
池田 篤, 土橋誠一郎, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

うの循環器外科クリニック

昭和大学 第二外科

宇野 弘昌
草野 満夫

シャントトラブルにおけるシャント血管造影の検討

札幌北榆病院 外科

後藤 順一, 久木田和丘, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

維持透析患者の周術期循環血液量

札幌北榆病院 麻酔科

札幌北榆病院 外科

中尾 康夫, 沼澤 理絵
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

自己抜針した患者の看護 - 安全の為の抑制について考える -

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

大西 史浩, 阿部 博, 久木田和丘,
米川 元樹, 川村 明夫

・第9回石綿研究会(平成14年7月20日=広島)

胸腔鏡が診断・治療に有効であったびまん性悪性胸膜中皮腫の一例

札幌北榆病院 呼吸器科

本田 哲史

・第44回日本臨床血液学会総会(平成14年9月12~15日=横浜)

重症再生不良性貧血症例に対するATG療法の治療成績

札幌北榆病院 内科

比嘉 敏夫, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
笠井 正晴

急性白血病患者から誘導したtype II NKT細胞の性状

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

造血幹細胞の遊走能と生着との関係

札幌北榆病院 内科

今井 陽俊, 小川 貴史, 小林 直樹,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第15回日本内視鏡外科学会総会(平成14年9月19~20日=東京)

胸腔鏡下肺部分切除で確定診断した転移性ヒト絨毛性ゴナドトロピン産生腫瘍の一例

札幌北榆病院 外科

飯田 潤一, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

札幌北榆病院 呼吸器科

本田 哲史

・第13回日本急性血液浄化学会学術集会(平成14年9月26~27日=東京)

(ワークショップ)急性血液浄化療法におけるリスクマネージメント

札幌北榆病院 外科

久木田和丘

シャッター型ダブルルーメンカテーテルの開発

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 久木田和丘, 後藤 順一,
江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 坂田 博美,
玉置 透, 目黒 順一, 川村 明夫

血液浄化時(手術後)における至適体重の検討

札幌北榆病院 臨床工学技士

札幌北榆病院 外科

札幌北榆病院 麻酔科

土濃塚広樹

久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

中尾 康夫

・第 40 回日本人工臓器学会大会(平成 14 年 10 月 2~4 日 = 札幌)

(大会長講演) わたくしと人工臓器

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

(シンポジウム) 内シャントトラブル処置別における開存成績の比較

札幌北榆病院 外科

後藤 順一, 久木田和丘, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
中島 保明

岩見沢市立病院

(ワークショップ) 末梢血幹細胞移植による血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 池田 篤,
江川 宏寿, 坂田 博美, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
中島 保明

岩見沢市立病院

シャッター型ダブルルーメンカテーテルの長所

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘, 久木田和丘, 米川 元樹,
後藤 順一, 江川 宏寿, 池田 篤,
飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,
玉置 透, 目黒 順一, 川村 明夫
中島 保明

岩見沢市立病院

・第 40 回日本癌治療学会総会(平成 14 年 10 月 16~18 日 = 東京)

B細胞性非ホジキンリンパ腫に対する Rituximab の使用経験

札幌北榆病院 内科

木山 善雄, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

アガリクス茸 (Agaricus blazei Murill) 抽出液による免疫賦活作用の検討

札幌北榆病院 内科

小林 直樹, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第 38 回日本移植学会総会(平成 14 年 10 月 17~19 日 = 東京)

ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP) の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 田中三津子,
増子 佳弘, 宮下麻美子, 川村 明夫

・第 25 回日本造血細胞移植学会総会(平成 14 年 10 月 24, 25 日 = 大阪)

骨髄非破壊的同種幹細胞移植後の T 細胞レパトアの解析

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

非血縁者間骨髄移植を施行した骨髄線維症の一例

札幌北榆病院 内科

今井 陽俊, 小川 貴史, 小林 直樹,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

同種造血幹細胞移植患者の QOL の向上を目指して - 移植前からの呼吸機能訓練と運動療法導入の試み -

札幌北榆病院 第 5 病棟 造血細胞移植センター

米田さやか, 原田 有子, 永井 裕子,
北村美奈子, 安達 るり

札幌北榆病院 看護部

栗坪 睦子

札幌北榆病院 理学診療科

湯藤 裕美

造血幹細胞移植患者が求める情報とその情報源について

札幌北榆病院 第 5 病棟 造血細胞移植センター

北村美奈子, 原田 有子, 米田さやか,
永井 裕子, 安達 るり

札幌北榆病院 看護部

栗坪 睦子

日本における悪性リンパ腫に対する造血幹細胞移植の成績(平成 13 年度 JSHCT 全国調査より)

愛知県がんセンター病院 血液化学療法部

田地 浩史, 小椋美知則, 森島 泰雄

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

愛知県がんセンター研究所 疫学・予防部

松尾恵太郎, 浜島 信之

・第 44 回日本消化器病学会大会(平成 14 年 10 月 24 ~ 27 日 = 横浜)

当院における潰瘍性大腸炎に対する nonwoven polyester filter (Finecell) を用いた白血球除去療法(LCAP) の治療成績

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 中井 義仁,
露口 雅子, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 川村 明夫

造血幹細胞移植に関連した消化管穿孔の 2 例

札幌北榆病院 消化器科

中井 義仁, 大泉 弘子, 桂田 武彦,
露口 雅子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第 64 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 14 年 10 月 24 ~ 27 日 = 横浜)

内視鏡による骨髄移植関連血栓性微小血管症 (bone marrow transplantation associated thrombotic microangiopathy) の検討

札幌北榆病院 消化器科

大泉 弘子, 桂田 武彦, 中井 義仁,

露口 雅子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・日本臨床麻酔学会第 22 回大会(平成 14 年 10 月 31 日 ~ 11 月 2 日 = 甲府)

術中モニターとしての下肢の非観血的血圧測定値はどの程度信頼できるか?

札幌北榆病院 麻酔科

沼澤 理絵, 中尾 康夫

・第 29 回日本低温医学会総会(平成 14 年 11 月 26, 27 日 = 岐阜)

[ワークショップ] 常温下腎保存とコンディショニング

札幌北榆病院 外科、人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

川村 明夫, 目黒 順一, 高橋 昌宏,

玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹

[シンポジウム] ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP) の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,

増子 佳弘, 宮下麻美子, 川村 明夫

地方会

平成 14 年

・第 22 回札幌市病院学会(平成 14 年 2 月 2 日 = 札幌)

経験の差異によるアセスメントの比較調査

札幌北榆病院 第3病棟

今村 広美, 赤根亜沙美, 村上亜由美,
小川 和希, 木村 優子, 武田あゆみ,
山本美好, 栗坪睦子

札幌北榆病院における輸血副作用発生状況

札幌北榆病院 輸血部

小矢奈々美, 禿 蘭子, 佐藤 壮,
三浦 玲子, 木山 善雄, 笠井 正晴

医療過誤防止への取組み

札幌北榆病院 薬剤部

朝井 玲江, 尾下 公人, 五十君篤哉

エコー機器における測定誤差の検証と機器の表示方法の提言

札幌北榆病院 放射線科

濱田 敏克, 西川 謙一, 富沢 智,
高橋 茂暢, 中山 大志, 石谷 安清,
中明鉄朗

・第 76 回北海道外科学会(平成 14 年 2 月 2 日 = 札幌)

Poor risk 症例の肝腫瘍に対して RFA (Radiofrequency Ablation Therapy) を施行した 2 例

札幌北榆病院 外科

後藤 順一, 目黒 順一, 池田 篤,
土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

・第 222 回日本内科学会北海道地方会(平成 14 年 2 月 16 日 = 札幌)

Good 症候群, 結腸癌, 副腎腫瘍を合併した重症赤芽球癆の 1 例

札幌北榆病院 内科

近藤 洋子, 東梅 友美, 小川 貴史,
小林 直樹, 今井 陽俊, 小笠原正浩,
木山 善雄, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第 27 回札幌市医師会医学会(平成 14 年 2 月 17 日 = 札幌)
 透析症例における術前術後のサイトカインの変動
 札幌北榆病院 外科
 久木田和丘, 後藤 順一, 池田 篤,
 土橋誠一郎, 村井 紀元, 飯田 潤一,
 増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
 玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
 川村 明夫
 札幌北榆病院 検査科
 三浦 玲子
- 樹状細胞を用いた WT1 特異的キラーT 細胞の誘導
 札幌北榆病院 内科
 小笠原正浩, 東梅 友美, 近藤 洋子,
 小川 貴史, 今井 陽俊, 小林 直樹,
 木山 善雄, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴
- ・第 8 回 Pancreatic-Biliary Research Forum(平成 14 年 2 月 23 日 = 札幌)
 肺疾患を契機に診断された腫瘍形成性膵炎の 1 例
 札幌北榆病院 消化器科
 川村 直之
- ・リツキサン講演会(平成 14 年 3 月 20 日 = 富山)
 [特別講演]リツキサン使用経験と今後の展望
 札幌北榆病院 内科
 木山 善雄
- ・第 37 回日本血液学会北海道地方会(平成 14 年 4 月 20 日 = 札幌)
 シクロスポリンが奏効した TTP の一例
 札幌北榆病院 内科
 今井 陽俊, 小川 貴史, 小林 直樹,
 小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
 笠井 正晴
 愛育病院 内科
 森岡 正信
 北大 血液内科
 東梅 友美, 近藤 洋子
- 初発時に血小板増多を伴った赤芽球低形成性 MDS の一例
 札幌北榆病院 内科
 小川 貴史, 今井 陽俊, 小林 直樹,
 小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
 笠井 正晴
 北大 血液内科
 東梅 友美, 近藤 洋子
- ・第 3 回細胞療法研究会(平成 14 年 5 月 11 日 = 札幌)
 STI571 とミニ移植を施行した CML-BC の一例
 札幌北榆病院 内科
 今井 陽俊
- ・第 61 回北海道透析療法学会(平成 14 年 5 月 12 日 = 札幌)
 [シンポジウム]鉄以外の原因による rHuEPO 不応性貧血について
 札幌北榆病院 人工臓器治療センター
 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第1回細胞治療セミナー(平成14年5月24日=鹿児島)
 (特別講演)造血幹細胞移植の現状 - 今後の医療経済のあり方 -
 札幌北榆病院 笠井 正晴

- (特別講演)造血幹細胞移植用クリニカルパス
 札幌北榆病院 造血細胞移植センター 安達 るり

- ・第90回日本消化器病学会北海道支部例会(平成14年6月1日=札幌)
 合併症のある原発性肝癌に対する開腹下RFA(ラヂオ波焼灼術)
 札幌北榆病院 外科 後藤 順一, 江川 宏寿, 池田 篤,
 飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,
 坂田 博美, 田中三津子, 玉置 透,
 久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
 川村 明夫

- GVHDによる十二指腸穿孔の1例
 札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁, 大泉 弘子, 桂田 武彦,
 露口 雅子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

- ・第6回北海道臓器移植フォーラム(平成14年6月2日=札幌)
 ラット肝虚血再灌流障害に対するatrial natriuretic peptide (ANP) の効果
 人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 池田 篤, 玉置 透, 田中三津子,
 増子 佳弘, 宮下麻美子, 川村 明夫

- CMV抗体陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植症例の検討
 札幌北榆病院 外科 後藤 順一, 田中三津子, 玉置 透,
 池田 篤, 江川 宏寿, 飯田 潤一,
 増子 佳弘, 堀江 卓, 目黒 順一,
 米川 元樹, 川村 明夫
 北里大学 外科 土橋誠一郎

- ・第84回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会(平成14年6月2日=札幌)
 アフタ様病変にて発症し後に典型的な経過をたどったクローン病の一例
 札幌北榆病院 消化器科 桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
 大泉 弘子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

- ・第16回北海道腎移植談話会(平成14年6月8日=札幌)
 CMV抗体陽性ドナーから陰性レシピエントへの生体腎移植例
 札幌北榆病院 外科 田中三津子, 後藤 順一, 玉置 透,
 江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
 坂田 博美, 増子 佳弘, 堀江 卓,
 久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
 川村 明夫

移植腎生検後に発症した腹腔内出血の一例

札幌北榆病院 外科

後藤 順一, 玉置 透, 田中三津子,
江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
坂田 博美, 増子 佳弘, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

効果的な退院調整について考える

札幌北榆病院 第6病棟

大久保巳知, 中村 絵美, 坂田 恭子,
源川 裕乃, 高橋 直美, 鈴木 雅永,
栗坪 睦子

全国移植患者スポーツ大会に向けて

札幌北榆病院 療養情報センター

星 奈美恵

(社)日本臓器移植ネットワークの組織再編成等について

(社)日本臓器移植ネットワーク北海道ブロックセンター

大須田浩輔, 富山はるみ, 玉置 透,
水戸 迪郎

2001 年度「腎不全患者さんご家族のためのわかりやすい腎移植を学ぶ会」アンケート調査報告

腎移植を学ぶ会運営委員会

星井 桜子, 関 利盛, 竹内 一郎,
田中三津子, 玉置 透, 森田 研,
吉田 祐一, 渡井 至彦

・第 63 回腸疾患研究会(平成 14 年 6 月 15 日 = 札幌)

血栓性微小血管症 (TMA) により消化管穿孔を起こした 1 例

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 内科

・第 13 回北海道腹膜透析研究会(平成 14 年 8 月 3 日 = 札幌)

CAPD 施行例における腹部手術の検討

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘, 久木田和丘, 後藤 順一,
江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 3 回空知血液懇話会(平成 14 年 8 月 29 日 = 滝川)

(特別講演)血液疾患の最近の話題

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

- ・第 29 回東北腎不全研究会・第 62 回北海道透析療法学会合同学術集会(平成 14 年 8 月 31 日～9 月 1 日 = 札幌)

維持透析症例中における丹毒の一例

札幌北榆病院 外科

坂田 博美, 久木田和丘, 後藤 順一,
江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫
宇野 弘昌

うのクリニック

- ・第 224 回日本内科学会北海道地方会(平成 14 年 9 月 7 日 = 札幌)

STI571 投与及びミニ移植を施行した CML-BC の一例

札幌北榆病院 内科

今井 陽俊, 小川 貴史, 小林 直樹,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

- ・第 11 回北海道透析骨関節障害談話会(平成 14 年 9 月 14 日 = 札幌)

活性型ビタミンD₃製剤における静注パルス後の経口維持療法

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 久木田和丘, 後藤 順一,
池田 篤, 江川 宏寿, 坂田 博美,
飯田 潤一, 増子 佳弘, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

腎性上皮小体機能亢進症術後活性型ビタミンD投与の有無におけるPTH回復度の比較

札幌北榆病院 外科

飯田 潤一, 久木田和丘, 池田 篤,
後藤 順一, 江川 宏寿, 増子 佳弘,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

二次性上皮小体機能亢進症に対し上皮小体全摘 + 自家移植術施行前後の骨塩量の変動について

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿, 久木田和丘, 後藤 順一,
池田 篤, 坂田 博美, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 77 回北海道外科学会(平成 14 年 9 月 14 日 = 札幌)

診断と治療に難渋した消化管アミロイドーシスおよび小腸クローン病を併存する慢性腎不全患者の消化管出血の1症例

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 後藤 順一, 江川 宏寿,
飯田 潤一, 増子 佳弘, 堀江 卓,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 50 回北海道麻酔学会(平成 14 年 9 月 14 日 = 札幌)
 透析患者の術前水分管理と麻酔下における心機能測定
 札幌北榆病院 麻酔科 沼澤 理絵, 中尾 康夫

- ・第 91 回日本消化器病学会北海道支部例会(平成 14 年 9 月 21 日 = 札幌)
 内視鏡的逆行性小腸造影が診断に有用であった小腸型クローン病の 2 例
 札幌北榆病院 消化器科 中井 義仁, 大泉 弘子, 桂田 武彦,
 三浦 洋輔, 露口 雅子, 川村 直之,
 斎藤 雅雄
 札幌北榆病院 外科 玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹

- 初回手術後, 経過観察中に再発した GIST の 2 症例
 札幌北榆病院 外科 江川 宏寿, 目黒 順一, 後藤 順一,
 池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
 坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 85 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会(平成 14 年 9 月 22 日 = 札幌)
 白血球除去療法 (LCAP) 単独で寛解維持が可能であったステロイド抵抗性潰瘍性大腸炎の 1 例
 札幌北榆病院 消化器科 桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
 大泉 弘子, 川村 直之, 斎藤 雅雄
 札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第 44 回日本臨床血液学会北海道地方会(平成 14 年 10 月 5 日 = 札幌)
 (シンポジウム) B 細胞性非ホジキンリンパ腫に対する抗 CD20 抗体療法
 札幌北榆病院 内科 木山 善雄, 笠井 正晴

- Allo PBSCT 後, GVHD 及び polyneuropathy (axonal degeneration) を合併した ALL 症例
 札幌北榆病院 内科 吉田 知恵, 小川 貴史, 今井 陽俊,
 小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
 比嘉 敏夫, 笠井 正晴
 手稲溪仁会病院 血液内科 森 正光
 手稲溪仁会病院 神経内科 長島 淑子

- CMV 抗原血症検査を指標とした Pre-emptive therapy の検討
 札幌北榆病院 検査科 佐藤 壯, 小矢奈々美, 千野 瞳,
 禿 蘭子, 豊澤 悠子, 三浦 玲子
 札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第 22 回日本アフェレシス学会北海道地方会(平成 14 年 10 月 12 日 = 札幌)

幹細胞移植による血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 池田 篤,
江川 宏寿, 坂田 博美, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

アフェレーシスを用いた末梢血単球からの樹状細胞の誘導

札幌北榆病院 内科

小川 貴史, 今井 陽俊, 小林 直樹,
小笠原正浩, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・ノバルティスファーマ(株)主催講演会「CML 新たな治療戦略」(平成 14 年 11 月 2 日 = 札幌)

グリバック症例報告

札幌北榆病院 内科

小川 貴史

・第 17 回北海道腎移植談話会(平成 14 年 11 月 2 日 = 札幌)

CAPD 腹膜炎のため血液透析導入となった FGS 症例に対する生体腎移植の一例

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 後藤 順一,
江川 宏寿, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

ITP が疑われた慢性腎不全症例に対する生体腎移植の一例

札幌北榆病院 外科

後藤 順一, 玉置 透, 池田 篤,
江川 宏寿, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

リーフレットを使用した退院後の日常生活指導について考える

札幌北榆病院 6 病棟

杉谷 円, 源川 裕乃, 坂田 恭子,
今井裕美子, 箕田 綾香, 高橋 直美,
相原 雅永, 栗坪 睦子

・第 46 回日本輸血学会北海道支部例会(平成 14 年 11 月 2 日 = 札幌)

非血縁同種臍帯血移植 (U-CBT) を施行した 3 成人例

札幌北榆病院 内科

吉田 知恵, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院における輸血副作用発生状況

札幌北榆病院

豊澤 悠子, 千野 瞳, 禿 蘭子,
小矢奈々美, 佐藤 壮, 三浦 玲子,
木山 善雄, 笠井 正晴

・北海道ブラッドアクセス検討会(平成 14 年 11 月 16 日 = 札幌)

カッティングバルーンの適正使用

札幌北榆病院 外科

久木田和丘

・平成 14 年度札幌市献血運動推進月間 献血のつどい(平成 14 年 11 月 28 日 = 札幌)

(講演)医療現場における輸血の実際

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

・第 8 回北海道レジデントカンファレンス(平成 14 年 11 月 30 日 = 札幌)

当院における白血球除去療法 (LCAP) の検討

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
大泉 弘子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

各部門報告

外科

平成14年度の外科の実績について報告します。

手術件数では、全身麻酔手術が582例、当科の特徴一つであるブラッドアクセス作製術は300件あまり、更に、今注目されている再生医療の一種である、動脈硬化症(ASO)による四肢虚血障害に対する自己末梢血幹細胞移植術が22例で、着実な成果が上がっています。今年度も更に多くの症例を重ねたいと思います。

また、昨年の学会活動では、学会発表が全国学会26件、地方学会19件、発表論文は、英文2題、邦文11題でした。

一方、昨年度は3つの全国学会を当院が主催しました。6月の第22回日本アフェシス学会学術大会、10月の第40回日本人工臓器学会大会、第6回アクセス研究会学術集会が、いずれも沢山の参加者により、成功裡に終わりました。今年度も6月に日本医工学治療学会第19回学術大会を主催し、盛会でした。引き続き11月にも低温医学会学術集会が予定されています。準備に何かと大変ですが、みんなで盛り上げたいと思います。

終わりに大変喜ばしいことを一つ。平成14年の日本医師会最高優功賞が、川村理事長に授与され、平成14年11月29日に受賞記念パーティが盛大に催されました。ご本人はもとより、職員全員の名誉であると思います。

以上、昨年度は大変な年でありましたが、今年も一層頑張って、全室無料個室のメリットが発揮できるようにしたいと思います。

(副院長 外科 目黒順一)

内科

日本内科学会の教育関連病院になっています。また平成15年度から卒後臨床研修病院として厚生労働省の研修施設となっております。一般内科では健康相談やどこの専門科にかかってよいのかわからない時の適切な指針を与えます。病気としては高血圧などの循環器疾患、糖尿病、また甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病などの甲状腺疾患、リウマチや全身性エリテマトーデスなどの自己免疫病や腎不全などの広範囲にわたる病気を中心に診察します。流行期には呼吸器科と一緒に風邪やインフルエンザなどの治療もします。各専門科と緊密な連携をとって診断、治療に当たります。

(内科部長 小林直樹)

血液内科

鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血などの貧血や赤血球増多症、血小板増多症、血小板減少症などの良性の病気や急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、リンパ腫、骨髄腫などの血液の悪性腫瘍の診断、治療を行う科です。抗がん剤治療や造血細胞移植(骨髄移植)を積極的に行い北海道内各地より多くの患者さんが紹介されてみえられています。完全個室医療で病床数も100床近くあり全国の臨床研究の共同施設となっており最新の治療を患者さんに提供しています。無菌室も

25床あり感染対策も他病院に比較して数段優れています。造血細胞移植療法も年間約40例以上行い現在まで約400例の移植を行いよい成績を治めています。また日本血液学会の認定病院で血液専門医のための後期血液研修制度があります。また輸血認定病院ですし造血細胞移植の認定施設にもなっています。ベテラン、中堅の経験豊富なドクターが多く、診療を担当しています。

(副院長 血液内科 笠井正晴)

札幌北楡病院造血細胞移植件数

	BMT		PBSCT	CBT	BMT		計
	血縁	非血縁	血縁	非血縁	自家	自家	
1986	1	0	0	0	0	0	1
1987	1	0	0	0	2	0	3
1988	4	0	0	0	9	0	13
1989	8	0	0	0	5	0	13
1990	8	0	0	0	8	0	16
1991	9	0	0	0	16	0	25
1992	8	0	1	0	8	0	17
1993	9	0	0	0	3	4	16
1994	6	5	0	0	1	4	16
1995	4	4	1	0	0	12	21
1996	2	11	6	0	2	16	37
1997	7	7	3	0	2	15	34
1998	1	13	8	0	0	13	35
1999	3	10	9	0	0	13	35
2000	0	23	11	1	0	10	45
2001	2	15	17	1	0	9	44
2002	0	11	8	1	0	11	31
Total	73	99	64	3	56	107	403

消化器科

現在、消化器科として5名の常勤医と1名の研修医がおり、それに内視鏡室のスタッフとして10名がいる(日本消化器内視鏡学会認定医技師4名がいる)。当科では殆どの消化器疾患に対応すべく体制をとっている。また、緊急時(主に吐・下血)、医師・看護師・技士のチームで速やかに対処できるようなシステムとなっている。

検査については、通常の上・下部消化管内視鏡検査、超音波検査をはじめとして、胃・大腸ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術(EMR)、ERCP、食道静脈瘤治療(EIS、EVL)、内視鏡的胆道系治療(EST等)、超音波内視鏡検査、肝腫瘍に対する穿刺治療(ラジオ波、Cryo等)等、積極的に取り組んでいる。これらに加え、CT scan 検査、MRIなどの画像検査も組み合わせ、診断している。

学会活動では、当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会の認定研修施設であり、積極的に学会発表を行っている。平成 14 年度には国際学会 2 題、日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会総会 7 題、地方会 7 題の他、研究会でも多数発表している。

(消化器科部長 斎藤雅雄)

呼吸器科

平成 11 年に開設された呼吸器科は医師 1 名で午前の外来診療を主としておりますが、医師の増員により診療体制の充実を予定しております。

呼吸器科の検査としては一般的なレントゲン検査の他に、肺 CT 検査は他院で類を見ない三次元画像診断ができます。放射性同位元素を用いた肺血流シンチグラムのみならず診断機器の増設で血管造影も可能になりました。呼吸機能検査はもとより、24 時間経皮酸素測定も可能となりました。気管支内視鏡による早期癌の治療も始めました。胸腔鏡は胸水疾患の診断ばかりではなく、自然気胸の内視鏡治療では北海道のセンターとして認められています。

気管支喘息の治療にはピークフローメーターを用いたステロイドの吸入療法を取り入れています。また肺結核の後遺症や慢性肺気腫その他の慢性呼吸不全の患者さんに対してのみならず透析患者さんにも在宅酸素療法も始め、在宅医療を充実しました。死亡率 1 位の肺癌に対しては胸腔鏡手術から開胸手術、化学療法や癌性胸膜炎に対する温熱療法、放射線療法など集学的治療が可能です。

学会活動としては日本気胸・嚢胞性肺疾患学会理事、日本内視鏡外科学会評議員、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会指導医、日本気管支学会・気管支鏡指導医、北海道内視鏡外科研究会世話人をしております。「自然気胸治療ガイドライン」編集委員会の委員長として試案をまとめ日本気胸・嚢胞性肺疾患学会のホームページに掲載しました。全国学会発表は 3 回です。

札幌東呼吸器談話会には毎月参加しており、病・医院間の連携も良くなってきました。

外来診療では職業病であるじん肺に力を注いできた甲斐があり「じん肺患者交友会」が組織され当院で患者・家族の交流会が開催され、道内各地で通院している患者さん達も多数参加されました。

入院診療においては血液内科・消化器科の先生のみならず、手術時には外科・麻酔科の先生方のご支援いただきこの紙面を借りてお礼申し上げます。

(呼吸器科部長 本田哲史)

整形外科

常勤医 2 人、非常勤医 1 人の体制で、外来は平日の午前中のみで午後は手術や検査を行っています。外来入院を通じ主治医制をとっており、患者さんの把握に努めています。主に外傷を扱う整形外科とは異なり、当院は(1)人工透析を行っている、(2)血液疾患に対し化学療法が行われている、(3)癌の骨転移に対し放射線治療を行える、などの特殊性があり、紹介された患者さんには他科と協力し治療にあたっています。長期透析患者の増加に伴い、腎性骨異常栄養症に伴う病的骨折・破壊性脊椎関節症・手根管症候群・関節周囲の石灰沈着などに対する手術が多く、手術件数の約 30% にもなっています。一般整形外科では股関節周囲の手術症例が多く、各種骨切り術、人工関節置換術など積極的に行って

いますが、最近の入院日数の制限は関節外科医にとっては頭が痛い問題です。

(当院ホームページの「臨床研修医募集」の整形外科紹介文です。)

(整形外科部長 高橋修司)

麻酔科

平成5年に麻酔科が開設され10年が経過しました。今までは、常勤で2名の麻酔科医が勤務していましたが、さらに昨年度より開成病院より1名の非常勤麻酔科医の応援を得ることができました。その結果、ペインクリニックが開設され外来診療も始まりました。

この間の麻酔科管理手術件数は、昨年までは毎年ほぼ一定の600～700の間を若干増加傾向を示しながら推移して来ましたが、昨年度は全室個室化が終了した後で、麻酔科管理手術件数が大幅に増加し、一気に800件を超えました。そのうちで維持透析患者の麻酔科管理手術件数は10年まえの31件から200件以上と約7倍にも増加してきています。手術室内での麻酔科医の業務は、麻酔をかけること考えられておりますが、麻酔をかけることは痛みを取り除くことだけではなく患者さんの全身状態を確認し安全を確保することが重要と考えております。一般の患者さんだけでなく、維持透析患者さんの麻酔を安全に行えるように日々努力しております。

麻酔科臨床研究では、全国学会に3回、研究会に1回、地方会に1回の発表を行っております。

研究内容は維持透析患者の周術期麻酔管理に関係する内容がメインとなっております。今後も、透析患者さんだけでなく、全ての麻酔を安全に施行できるように努力してゆきます。

(麻酔科部長 中尾康夫)

人工臓器治療センター(AOC)

AOCでは血液浄化を継続的に行っているが、年間の慢性血液透析数は42,000回を超えている。ベッドサイドコンソールはAOC西72床、AOC東14床、ICU4床、計90床が稼働中である。他に急性血液浄化としては重症の肝疾患、急性腎不全、慢性疾患としてはリウマチ、膠原病、炎症性消化器疾患等に対して各種血液浄化あるいはアフエーシスを行った。西AOCではセントラル用コンソールが40台を超えたため、新たに透析用供給装置(TC-B:40人用)を追加した。また末梢血幹細胞とともに血管再生治療症例が増加したため、COBEスペクトラを1台追加し現在2台体制で幹細胞採取を行っている。

学会活動も積極的に参加するのみではなく、平成14年度は当院で日本人工臓器学会、日本アフエーシス学会およびアクセス研究会を主催した。全国学会参加は医師のみではなく、臨床工学技士、看護師も現場のあるいは実験での成果を多数報告した。

今後とも新しい技術の導入、確保、開発に努める必要がある。

(人工臓器治療センター長 久木田和丘)

小児科

小児科は、外来診療を中心に、急性疾患の診断・治療、予防接種、健診などの健康管理、喘息・アレルギー関連疾患の長期管理などです。学校検尿異常や腎疾患疑いの患者さんについてはいつもご紹介いただき感謝しております。循環器・神経・内分泌など専門分野の症例は、北大小児科の各診療班及び関連病院の諸先生に大変お世話になり、この場を借りてお礼申し上げます。予防接種・健診は、体調の良い時を逃がさず対応できるよう予約制をとらず、月～金曜日と土曜日の午前も実施する体制を続けています(インフルエンザワクチンは要予約です)。一般外来を確実に診療するとともに、家庭でのケアをよりわかりやすく保護者の方々に伝えてゆけるよう努力しています。

入院はほとんどが急性疾患への対応となっています。平成 14 年度末には全病室個室となりましたので、感染症の多い小児の入院治療にこの利点をさらにいかしてゆきたいと思えます。

質の高い医療と小児科特有の保健活動の充実に、スタッフと共に取り組んでゆきたいと考えます。

(小児科医長 安田一恵)

歯科

歯科は、平成 12 年 11 月に常勤となって以来、早いもので 3 年の月日が経とうとしている。医師 1 名、衛生士 2 名、受付 1 名の体制で診療している。札幌市は歯科医院が飽和状態で、いまやコンビニエンスストアよりも多く、患者はよりよい医療を求めて、自由に医院を選択できる時代となっている。札幌北榆病院の体制の少しずつ変わり、長期にわたって入院される患者が減り、短期間の患者が増えているので、毎回の治療が時間との戦いで、限られた期間(時間)の中で、的確な診断と治療が求められている。有病者の治療は外科や内科のドクターとの連携プレーによって成り立っており、全身の管理を行いつつ、1 口腔単位での治療を心がけている。

最近では歯科材料(接着性レジン)や技術(移植、再植、歯周治療)の発達により、ひと昔前には抜歯対象といわれていた歯も保存できるようになっている。当院でも 7 例の自家移植、再植を行い、予後良好な経過をたどっている。平成 15 年度には、開成病院のほうにも往診に行くようにし、カリエスの処置から抜歯、義歯の作製、調整等を行っている。

(今井 信)

人工臓器、移植、遺伝子治療研究所

特定医療法人として高度先進医療を推し進めている北榆病院は、造血細胞移植センター、人工臓器治療センターに加えて、他の施設には類をみない人工臓器・移植・遺伝子治療研究所を併設しています。現在の研究所は平成 8 年に開設されてから、様々な研究課題に取り組んで来ました。

動物実験室は主に外科系の研究者が利用しています。これまでの研究課題として、川村理事長、久木田部長、飯田医長らの「血液透析用穿刺型ブラッドアクセスの開発」はビーグル犬を用いた前臨床段階の実験研究が盛んに行われています。ブラッドアクセスがなく透析困難な症例には非常に有用と思われれます。しかし、動物モデルに人工血管を移植して長期開存を得ることはなかなか大変です。堀江部長、津田医員らはすでに臨床で行われている「末梢血幹細胞移植による虚血肢の血流改善」の機序をビーグル犬を用いて解明しようとしています。坂田医長、池田医員らは「ウイルスベクターを用いない in

vivo 遺伝子導入技術の開発」をラットを用いて行っています。人体に直接遺伝子改変物質を投与するなど、臨床の場においてはウイルスベクターの安全性が確立していませんので、このような研究は今後も積極的に行う必要があります。現在、様々なラット疾患モデルに細胞増殖因子を導入することによって、in vivo 遺伝子導入技術の有用性を検討しています。池田医員、江川医員らは様々なラット臓器移植モデルを作成して「ストレス応答性細胞保護物質の誘導とその虚血再灌流傷害に対する効果」を検討しています。わが国では脳死下臓器提供が不足しており、心停止後摘出された臓器を移植せねばならないことが多く、少しでも細胞機能の低下を防止する必要があります。

一方、遺伝子研究室は主に内科系の研究者が利用しています。血液内科からは、笠井副院長、木山部長、小笠原医長らは「樹状細胞を用いた造血器悪性腫瘍の免疫遺伝子治療の基礎研究」、「アンチセンス遺伝子を用いた白血病の治療」、「リンパ系腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の研究」など血液悪性腫瘍の治療に新機軸を打ち立てるべく積極的に基礎研究が行われています。現在、臨床応用に向けて最終段階に入っています。消化器内科からは、斉藤部長らは「胃十二指腸疾患と Helicobacter Pylori 菌との関連性」について永年研究されています。

これらの研究課題から、これまで多くの医学博士取得者を輩出しています。平成11年度以降でも高橋医員(移植)、鹿取医員(Transplantation)、田中医長(北海道医誌)、安原医員(北海道医誌)、増子医長(北海道医誌)が学位取得しており、さらに、内田医員(Transplantation International)、海津医員(Kidney International)、土橋医員(Surgery)に論文掲載され、近日中に医学博士取得者となる予定です。

平成14年度の研究所からの研究業績は、国際学会4件、全国学会8件、地方会1件でした。先進医療を支えるためにも、研究課題を吟味してさらに研鑽する必要があります。これらの研究を支えていただいている動物飼育室の木村さんと本間さんならびに実験助手の宮下さんと木村さんに感謝します。

(人工臓器・移植・遺伝子治療研究所所長 玉置 透)

論文

邦文

平成 14 年

血漿交換 . 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . 輸血ハンドブック 第2版, 霜山龍志 編, 医学書院, 東京, 2002, p.149-175

Cryofiltration における最近の技術的動向 . 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院) . 日本アフェレシス学会雑誌 21(1): 20-27, 2002

自己免疫性肝炎に対する血漿冷却濾過 (CRYO) の有効性について . 村井紀元, 後藤順一, 池田 篤, 土橋誠一郎, 飯田潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 日本アフェレシス学会雑誌 21(1): 70-73, 2002

日本アフェレシス学会雑誌 21 巻 2 号巻頭言 . 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 日本アフェレシス学会雑誌 21(2): 111-113, 2002

血漿冷却濾過の実際 . 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . 日本アフェレシス学会雑誌 21(2): 156-158, 2002

シャント静脈表在化症例の検討 . 有倉 潤, 久木田和丘, 土橋誠一郎, 村井紀元, 海津貴史, 飯田潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 日本透析医学会誌 35(4): 231-235, 2002

ラット小腸温阻血・再灌流傷害に対する L-Glutamine の効果 : Heme Oxygenase-1 の誘導と抗 apoptosis 作用 . 増子佳弘 (北大・消化器外科・一般外科) . 北海道医学雑誌 77(2): 169-183, 2002

透析患者における消化管異常 II. 上部消化管異常 (2) 胃・十二指腸 (上部消化管出血) . 久木田和丘, 坂田博美, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) , 大泉弘子 (札幌北榆病院・消化器科) . 臨牀透析 18(12): 1521-1524, 2002

慢性透析患者の周術期管理 . 久木田和丘, 後藤順一, 池田 篤, 土橋誠一郎, 村井紀元, 飯田潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) , 中尾康夫 (札幌北榆病院・麻酔科) . ICU と CCU 26(別冊): S19-20, 2002

人工血管部における皮膚欠損とその対処 . 久木田和丘, 後藤順一, 土橋誠一郎, 池田 篤, 村井紀元, 飯田

潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・外科). 腎と透析 53(別冊), アクセス 2002, p.79-81, 2002

自然気胸治療における3D-CT画像の作成法. 中山大志(札幌北榆病院・放射線科), 本田哲史(札幌北榆病院・呼吸器科・気胸センター). 気胸 第4巻, 第5回日本気胸学会総会論文集, p.13-15, 2002

自然気胸治療における3D-CT画像の有用性. 本田哲史(札幌北榆病院・呼吸器科・気胸センター). 気胸 第4巻, 第5回日本気胸学会総会論文集, p.16-18, 2002

透析患者の術前水分管理と麻酔下における心機能測定. 沼澤理絵, 中尾康夫(札幌北榆病院・麻酔科). 循環制御 23(4): 416-419, 2002

骨髄バンクドナーの麻酔. 中尾康夫(札幌北榆病院・麻酔科). 臨床麻酔 26(2): 155-160, 2002

「麻酔関連偶発症例調査2000」について: ASA-PS別集計 - (社)日本麻酔科学会手術室安全対策専門部会報告. 入田和男(九州大麻酔・蘇生学), 川島康男(帝京大麻酔科), 津崎晃一(慶応大・麻酔学), 巖康秀(杏林大麻酔科), 小林勉(金沢大麻酔・蘇生学), 瀬尾憲正(自治医大麻酔科), 後藤康之(北海道ペインクリニック研究所), 森田潔(岡山大麻酔・蘇生学), 白石義人(静岡県立総合病院麻酔科), 中尾康夫(札幌北榆病院麻酔科), 田中義文(京都府立医大麻酔学), 戸崎洋子(愛染橋病院麻酔科), 土肥修司(岐阜大麻酔・蘇生学), 尾原秀史(神戸大麻酔学). 麻酔 51(1): 71-85, 2002

血小板輸血適正使用の検討. 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 厚生科学研究費補助金(特別研究事業)「採血基準の改定と血液製剤の適正使用に関する研究」平成13年度報告書, p.150-155, 2002

非血縁者間骨髄移植を受けた成人患者へのアンケート解析結果. 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 厚生科学研究費補助金(特別研究事業)「非血縁者間骨髄移植に関する情報提供のあり方と移植患者の生活の質向上に関する研究」平成13年度総括・分担研究報告書, p.32-41, 2002

フローサイトメトリーによる細胞内染色の基礎的検討. 佐藤 壮, 此枝義記, 横田亘弘, (札幌北榆病院・臨床検査科), 小笠原正浩, 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 医学検査 51(9): 1271-1275, 2002

透析症例における術前術後のサイトカインの変動. 後藤順一, 久木田和丘, 池田 篤, 土橋誠一郎, 村井紀元, 飯田潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫(札幌北榆病院・外科), 三浦玲子(札幌北榆病院・検査科). 札医通信増刊 No.210, 第27回札幌市医師会医学会誌, p.63-64, 2002

樹状細胞を用いた WT1 特異的キラーT細胞の誘導. 小笠原正浩, 東梅友美, 近藤洋子, 小川貴史, 今井陽

俊, 小林直樹, 木山善雄, 比嘉敏夫, 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 札医通信増刊 No.210, 第 27 回札幌市医師会医学会誌, p.231-232, 2002

骨髄移植とミニ移植. 小林直樹, 笠井正晴(札幌北榆病院・内科). 臨床病理レビュー 特集 第 122 号, p.13, 2002

経験の差異によるアセスメントの比較調査. 今村広美, 赤根亜沙美, 村上亜由美, 小川和希, 木村優子, 武田あゆみ, 山本美好, 栗坪睦子(札幌北榆病院・第3病棟). 第 22 回札幌市病院学会講演集 p.94-95, 2002

札幌北榆病院における輸血副作用発生状況. 小矢奈々美, 禿 蘭子, 豊澤悠子, 佐藤 壮, 三浦玲子, 木山善雄, 笠井正晴(札幌北榆病院). 第 22 回札幌市病院学会講演集 p.209, 2002

医療過誤防止への取組み. 朝井玲江, 尾下公人, 五十君篤哉(札幌北榆病院・薬剤部). 第 22 回札幌市病院学会講演集 p.233-236, 2002

エコー機器における測定誤差の検証と機器の表示方法の提言. 濱田敏克, 西川謙一, 富沢 智, 高橋茂暢, 中山大志, 石谷安清, 中明鉄朗(札幌北榆病院). 第 22 回札幌市病院学会講演集 p.293-295, 2002

(座談会) アクセス設置の基本戦略-糖尿病, 高齢者を中心に-. 政金生人(矢吹病院腎透析センター), 太田和夫(太田医学研究所), 中川芳彦(南町クリニック), 久木田和丘(札幌北榆病院人工臓器治療センター), 宮田昭(熊本赤十字病院腎センター). 腎と透析 53 巻別冊, アクセス 2002, p.49-67, 2002

(座談会) 診断困難な胸膜疾患をめぐって. 田中健彦(東京都立墨東病院内科), 井内康輝(広島大病理学), 本田哲史(札幌北榆病院・呼吸器科), 三浦溥太郎(横須賀共催病院内科). 呼吸 21(12): 1076-1086, 2002

英文

2002 年

Critical care by cytapheresis. Kawamura A, Tsuchihashi S, Yonekawa M, Saitoh M, Tamaki T, Meguro J, Kukita K (Sapporo Hokuyu Hospital). *Therapeutic Apheresis* 6(3): 204-207, 2002

Transfusion in Japan. Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). *Transfusion and Apheresis Science* 26: 113-114, 2002

Application of peripheral blood stem cells (PBSC) mobilized by recombinant human granulocyte colony stimulating factor for allogeneic PBSC transplantation and the comparison of allogeneic PBSC transplantation and bone marrow transplantation. Kasai M, Kiyama Y (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital), Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). *Transfusion and Apheresis Science* 26: 121-127, 2002

Analysis of mixed chimerism in patients after allogeneic stem cell transplantation using a capillary electrophoresis system. Tsutsumi Y, Tanaka J, Kato N, Zhang L, Imamura M (Dept. of Haematology and Oncology, Hokkaido Univ.), Mori A, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Kobayashi R (Dept. of Pediatrics, Hokkaido Univ.), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *Acta Haematologica* 107: 195-202, 2002

Factors affecting toxicity, response and progression-free survival in relapsed patients with indolent B-cell lymphoma and mantle cell lymphoma treated with rituximab: a Japanese phase II study. Igarashi T, Kobayashi Y, Ogura M, Kinoshita T, Ohtsu T, Sasaki Y, Morishima Y, Murate T, Kasai M, Uike N, Taniwaki M, Kano Y, Ohnishi K, Matsuno Y, Nakamura S, Mori S, Ohashi Y, Tobinai K (IDEC-C2B8 Study Group in Japan). *Annals of Oncology* 13: 928-943, 2002

Induction of CD94/NKG2A expression on T cells in mixed lymphocyte culture by CD14⁺ cells from granulocyte colony-stimulating factor-mobilized peripheral blood mononuclear cells. Tanaka J, Tutumi Y, Li Z, Katoh N, Sugita J, Imamura M (Dept. of Haematology and Oncology, Hokkaido Univ.), Mori A, Toyoshima N, Ota S, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Kobayashi M (Cancer Pathobiology, Institute for Genetic Medicine, Hokkaido Univ.), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *British Journal of Haematology* 117: 751-754, 2002

Donor-specific blood transfusion prolongs cardiac allograft survival in rats by low nitric oxide production and elevated serum levels of prostaglandin E₂. Inuzuka S, Koba S, Nishikido M, Miyata Y, Saito Y, Kanetake H

(Dept. of Urology, Nagasaki Univ.), Kanda S (Dept. of Molecular Microbiology and Immunology, Div. of Endothelial Cell Biology, Nagasaki Univ.), Shimokawa I (Dept. of Pathology, Nagasaki Univ.), Tanaka M (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). Immunology Letters 83: 119-124, 2002

Prediction of chemosensitivity for patients with acute myeloid leukemia, according to expression levels of 28 genes selected by genome-wide complementary DNA microarray analysis. Okutsu J, Kaneta Y, Katagiri T, Kitahara O, Zembutsu H, Yanagawa R, Nakamura Y (Laboratory of Molecular Medicine, Univ. of Tokyo), Tsunoda T (SNP Research Center, RIKEN), Miyawaki S (Saiseikai Maebashi Hospital), Kuriyama K (Nagasaki Univ.), Kubota N (Tokai University), Kimura Y (Tokyo Medical Univ.), Kubo K (Aomori Prefectural Central Hospital), Yagasaki F (Saitama Medical School), Higa T (Sapporo Hokuyu Hospital), Taguchi H (Kochi Medical School), Tobita T (Yaizu City Hospital), Akiyama H (Tokyo Metropolitan Komagome Hospital), Takeshita A (Hamamatsu Univ.), Wang Y-H, Motoji T (Tokyo Women's Medical Univ.), Ohno R (Aichi Cancer Center Nagoya). Molecular Cancer Therapeutics 1: 1035-1042, 2002

主催学会報告

第 22 回日本アフェレシス学会学術大会

(平成 14 年 6 月 15, 16 日 北海道大学学術交流会館)

大会長 川 村 明 夫

第 40 回日本人工臓器学会大会

(平成 14 年 10 月 2 ~ 4 日 京王プラザホテル札幌)

大会長 川 村 明 夫

第 6 回アクセス研究会

(平成 14 年 10 月 5 日 京王プラザホテル札幌)

会 長 久 木 田 和 丘

第 22 回日本アフェレシス学会学術大会

大会事務局長 米川元樹

第 22 回日本アフェレシス学会学術大会は「より高く、そして足元を見つめて」をテーマに、川村明夫理事長が主催した。札幌での開催は 1995 年の第 15 回学術大会(大会長:故関口定美先生)以来である。

従来、学術大会の抄録集はプリントアウトされた抄録を集めてオフセット印刷したものであるが、フォントがまちまちで読みにくいため、全ての抄録を電子メールで集め、当方でフォントを統一して印刷することにした。出来上がった抄録集は非常に見やすく、すっきりしたものとなった。

理事会ならびに会長招宴は 2002 年 6 月 14 日(金)小樽の銀鱗荘を借り切って催した。銀鱗荘は小樽の栄華をいまに伝える鯉御殿で、貸し切りには難色を示したが、全国から教授クラスが集まる理事会なので宣伝にもなるだろうと話し、宿泊を条件に借りることができた。全ての部屋の間取りが異なり、大きさもまちまちなので、理事の方々には失礼ながら相部屋をお願いした。大網元の屋敷として建造された建物は、さすがに豪壮にして優雅で、皆さんに喜んでいただくことができ、ホッとしている。

6 月 15 日からの学術大会は北海道大学学術交流会館で行った。多くの方々にご発表をお願いし、特別講演 2 題、教育講演 2 題、シンポジウム(11 セッション)59 題、ワークショップ(12 セッション)66 題、一般演題 91 題、合計 220 題の演題が集まった。その他、特別企画パネル、ランチョンセミナー 5 セッション、技術講習会、井上賞受賞記念講演など、多彩なプログラムとなった。この演題数をこなすために、学術交流会館の 5 会場を使ったが、第 4 と第 5 会場は会議室なので比較的小さく、シンポジウムやワークショップの討論で演者が並んで座るとかなり狭く、演者の皆さんに窮屈な思いをさせたことをお詫び申し上げる。

特別講演 1 は理事長がアフェレシス領域で以前から親交のあった Dr. Bambauer(ドイツ)にお願ひし、「Low-Density Lipoprotein Apheresis」と題して、ご講演いただいた。非常に気さくなお人柄が印象的であった。また、特別講演 2 は「アフェレシス治療を考える」と題して、アフェレシス学会理事長の渋谷統壽先生にご講演

いただいた。教育講演は東京女子医科大学腎臓病総合医療センターの峰島三千男先生の「アフェレシス治療における工学の基礎」と、滋賀医科大学の谷 徹先生の「Plasmapheresis における新しい治療開発と評価方法における重要点」で、いずれの講演も好評であった。また、日本アフェレシス学会ではアジアの国における普及と発展を目指しており、そのような観点から「アジアの国から」というテーマのシンポジウムを組み、タイ、韓国、台湾、マレーシア、中国から若手研究者の発表があった。一方、今回が最初の認定医、認定技士試験も滞りなく行われた。

6月15日夜は、学术交流会館からバスで小樽の群来陣へ行き、会員懇親会を催した。群来陣は現存する最古の鯨番屋で、座敷だけではなく、外の駐車場にもテントを張って、魚介類の焼き物があった。雨の心配もあったが、天候に恵まれ、また、アサヒビール提供のジャンパーは非常に好評で、外のバーベキューにも多数の参加者があり、山海の珍味を大いに堪能していただいたと思う。最終的参加者は220名であったが、予定より早めに出発する帰りのバスがあり、食べ残しが多くもったいなかった。

近年、演題数が伸び悩み、学会の在り方が検討される中で、本学術大会は非常に多くの演題が集まり、843名の参加者に加えて、開催期間中の新規入会者が多数あり、学会の活性化に大いに貢献したと思われる。最後に、学術大会の開催にご協力いただいたプログラム委員、評議員、座長や司会の労をお取りいただいた方々、また、ご寄付いただいた企業、当日お手伝いいただいた方々、病院の職員に厚く御礼申し上げます。

第40回日本人工臓器学会大会開催

大会事務局長 米川元樹

第40回日本人工臓器学会大会は「患者さんは待てない、人工臓器開発のピッチをあげよう」をテーマに、川村明夫理事長が主催し、2003年10月2日から4日の3日間、京王プラザホテル札幌で開催した。過去の日本人工臓器学会は大学の講座あるいは公的研究機関が主催し、私的病院がお引き受けするというのは今回が初めてのことであり、準備段階から主催者側としては身の引き締まる思いがあった。

準備は日本アフェレシス学会の準備まっ最中の年明けから開始した。そのため、FAXやメールが、もう一方の学会事務局に届いたりして、混乱することもあった。日本アフェレシス学会学術大会が終了した6月半ばには、シンポジウムやワークショップの指定演者に依頼文を送付し終えていた。しかし、ここからが大変で、なかなか思うように抄録が集まらず、何とか抄録集が完成したのは9月上旬であった。従来、学術大会の抄録集はアフェレシス学会と同様に、プリントアウトされた抄録を学会事務センターが集めてオフセット印刷したものであるが、フォントがまちまちで読みにくいので、全ての抄録を電子メールで集め、当方でフォントを統一して印刷することにした。出来上がった抄録集は日本人工臓器学会事務センターに送り、すぐに各会員に送付されるものと思っていたが、事務手続きが悪く、実際に会員の手元に届いたのは、大会2週間前であった。9月上旬からは大会ホームページにプログラムを掲載したものの、抄録集の送付が遅れたため、関係者の方々から問い合わせの電話やメールが少なからずあり、ご迷惑をおかけした。

特別講演は松田 暉先生の「重症心不全治療における補助人工心臓の役割—新たな展開を目指し—」、阿岸鉄三先生の「札幌発未来駅行き腎不全の医工学治療」、藤堂 省先生の「わが国の移植医療を考える」、能勢之彦先生の「Artificial organs versus or with regenerative medicine」の4題、招請講演はDr. Kormos RLの

「Mechanical and biological choices for end-stage congestive heart failure : repair, recovery and replacement」、Dr. Lie TS の「Significance of artificial liver support for treatment of hepatic failure」、Dr. Bosch T の「Recent advances in therapeutic apheresis」、Dr. Wojcicki JM の「Toward improvement of diabetes treatment. Recent developments in technical support」の 4 題、また教育講演は土田英俊先生の「臨床応用可能な人工赤血球の創製に関する研究」、伊福部 達先生の「人工感覚器官の現状と将来」、井上一知先生の「膝島再生医療の現状と展望」の 3 題、と非常に幅広い分野を網羅する講演内容で、今さらながら人工臓器学会の横の広がりを再認識するものとなった。さらに、「患者さんは待てない、開発のピッチをあげよう」をテーマのパネルディスカッションがあり、シンポジウムは 13 セッション、73 題、ワークショップは 18 セッション、112 題、一般演題は 204 題、さらにオリジナル賞候補演題 12 題、JSAO Grant 受賞者、論文賞受賞者、技術賞受賞者などの発表、そして大会長講演、合わせて 420 題の発表があった。これぞまさしく、川村理事長が今回の学会を代謝系会員の参加者数や演題数を回復させ、また再生医療分野を取り込んでいく大会にしようとの意図で集めた演題数である。本大会ではさらに、膜型人工肺研究会、臨床補助人工心臓研究会を同時開催したため、京王プラザホテルの 8 会場をフルに使うこととなった。プログラム作成に当たっては、演者や司会者がダブルブッキングにならないように、パソコンで何度も確認作業を行った。

わずか 4 ヶ月前に日本アフェリシス学会を担当したおかげで病院職員も大会運営に慣れ、学会当日はトラブルも少なく、大会はおおむね順調に運んだ。発表形式は基本的にスライドで、一部の講演のみ PC プレゼンテーションとしたが、間際になって何とか PC プレゼンテーションをさせて欲しいとパソコンを持ち込んできた演者もいたが、許可すると公平性に欠けるとの判断で、スライドをお願いした。PC プレゼンテーションを用いた発表者には、往々にして、発表時間を厳守するという姿勢に欠けている。いずれ全面的に PC プレゼンテーションになるのは間違いないが、発表者にどうやってマナーを守らせるかが最大の課題である。

一日目の夕方は京王プラザホテルからバスで澄川のアサヒビール百景園に移動し、会員懇親会を開催した。約 310 名の参加があり、百景園の二階席はほぼ満杯であった。混雑にまぎれて手荷物をねらったと思われる不審者が理事長に感づかれ、結局追い出されるというハプニングもあった。

最終的な大会参加者は 1,108 名(有料入場者 978 名)と、従来 of 大会参加者を大きく上回り、大盛会であった。学術大会の開催にご協力いただいた理事、評議員、座長や司会の労をお取りいただいた方々、また、ご寄付いただいた企業、またアフェリシス学会に引き続いてお手伝いいただいた方々、病院の職員に厚く御礼申し上げます。

第 6 回アクセス研究会報告

会長 久木田和丘

本研究会は腹膜透析あるいは血液透析のルート確保をテーマとしており、年 1 回開催され、今回で第 6 回目を迎えた。平成 14 年 10 月 5 日(土)、前日までの第 40 回日本人工臓器学会に引き続き京王プラザホテル札幌 2 階ローズルーム、クラウンルーム、クローバールームの 3 会場で開催された。教育講演が 1 題、シンポジウム 1 席 7 題、一般演題が 40 題、ランチョンセミナー 2 題と、本研究会としては演題数が比較的多かった。内容はカテーテルに関するもの、人工血管、ブラッドアクセス合併症、ブラッドアクセス評価法、各種ブラッドアクセスの開存成績、また最近広く普及してきたインターベンション治療など豊富であった。有料参加者は 218 名で、

各会場では熱心な討議がおこなわれた。特に今回は表在化ブラッドアクセスをシンポジウムに取り上げたが、これまであまり検討されていなかったテーマであり、会場は熱気に包まれていた。またブラッドアクセスと平均余命についての教育講演では、いたずらにワンパターンの内シャント作製を拘泥する事のないような結論であった。

朝9時より17時5分まで研究会は行われ、17時15分からホテル地下に場所移し懇親会を行った。第7回のアクセス研究会は平成15年10月26日(日)、東京全共連ビルで開催される予定である。

編集後記

昨今医療の標準化ということでマニュアルやガイドラインが作成され、それに準拠した方法が推奨されている。そもそものマニュアル作りは多民族国家アメリカでさまざまな考え能力習慣の異なる衆を作業工程を間違えないように卓越した人が作りだした方策である。匠の世界、感性をもちいる伝承の世界では作りえないことであるが、画一化された作業では無駄を省き効率よく安全な医療を行うためには必須である。しかし、マニュアル、ガイドラインを超えた領域を新たに開拓しつつ工夫し医療を行わなければ発展はありえない。当院も御時世にもれず機能評価病院としての認定を更新すべくマニュアル、ガイドライン作りや改訂が病院職員の責務となっている。特定医療法人北楡会は急性期の医療を行っていますが昨年より札幌市内北区の開成病院も当特定医療法人の経営となり、札幌北楡病院 229 床と開成病院 100 床の計 329 床の病床を有し、研究部門は人工臓器・移植・遺伝子治療研究所で変革する医療に対応しています。全室無料個室化を実践しアメニティに配慮した医療を心がけ、医師の教育、研修に関しても平成 15 年度より臨床研修病院として厚生労働省の認可を得ており研修システムを構築中です。今年度も職員の努力の歩みの一端を本誌を借りて御報告し今後もますますの御厚情をお願いする次第です。

副院長 笠井正晴

(医)北楡会誌 第十六巻

JOURNAL OF HOKUYUKAI VOL.16, 2003

平成 15 年発行

発行者 川村明夫

AKIO KAWAMURA

発行所 特定医療法人北楡会

HOKUYUKAI

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 6 丁目

HIGASHISAPPORO 6-6, SHIROISHI-KU, SAPPORO 003-0006

TEL. (011) 865-0111